

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

93

子育て広場事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	5	家庭や地域における教育力の向上
施策	1	家庭や地域における教育力の向上
取組方針	1	家庭における教育力の充実

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	民生費		
	項	児童福祉費		
	目	児童福祉総務費		
	大事業	児童福祉総務費(子育て支援課)		
	中事業	子育て広場事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	子育て支援課	榎野照明
事業実施の根拠法令			関連課	435-1329		

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	「子育てひろば」を開催し、親の子育て意識の啓発と、親同士の交流を促すことにより、家庭教育における学習活動や仲間づくりを推進する。		家庭教育指導員により、手遊びやふれあい遊びを通して、親子の交流や子育てのヒントを得てもらい、親育ちを支援する。			
事業内容	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	
	保育園・幼稚園に就園前の乳幼児とその保護者を対象に、市内7会場年間120回「子育てひろば」を開催する。「親磨きのススメ」と題し、日曜日に開催するパパと遊ぶの開催日に合わせて、子育て(家庭教育)に関する講演会を開催する。	保育園・幼稚園に就園前の乳幼児とその保護者を対象に、市内7会場年間120回「子育てひろば」を開催する。	保育園・幼稚園に就園前の乳幼児とその保護者を対象に、市内7会場年間120回「子育てひろば」を開催する。	保育園・幼稚園に就園前の乳幼児とその保護者を対象に、市内7会場年間120回「子育てひろば」を開催する。	保育園・幼稚園に就園前の乳幼児とその保護者を対象に、市内7会場年間120回「子育てひろば」を開催する。	保育園・幼稚園に就園前の乳幼児とその保護者を対象に、市内7会場年間120回「子育てひろば」を開催する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	899	858	1,043	938	953	780	854	0	854	0
伸び率(%)	△7.1%	△4.7%	16%	9.3%	△8.6%	△16.8%	△10.4%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	1,439	1,519	1,370	1,450	2,787	2,867	0	0	0
	正規職員以外	10,660	10,588	10,345	11,645	9,904	7,433	7,043	0	0
	小計	12,099	12,107	11,715	13,095	12,691	10,300	9,910	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	8	0	8	0	9	0	10	0	0	0
一般財源(税等)	891	858	1,035	938	944	780	844	0	854	0
所要人数(人)	正規職員	0.18	0.19	0.17	0.18	0.35	0.36	0.36	0.00	0.00
	正規職員以外	4.49	4.49	4.59	5.16	4.57	3.43	3.25	0.00	0.00
主な予算内訳	報償金 108千円 消耗品費 124千円 印刷製本費 42千円 会場借上料 391千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
子育てひろば開催数		回	目標値	117	120	120	120	120
			実績値	115	109	96		
			達成度(%)	98.29%	90.83%	80%	%	%
子育てひろば参加者数		人	目標値	12000	12000	12000	12000	12000
			実績値	9947	8720	2389		
			達成度(%)	83.30%	72.67%	19.91%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>参加者数は約10,000人強で落ちていたが、平成29、30年度で10000人を切り、参加者が減少し、理由の分析と対応の検討を加えながら、親子の交流の場の提供と家庭教育の普及に取り組んでいく必要があった。平成29年度から、「親磨きのススメ」とし、家庭教育に関する講演会を同時開催し、親が学ぶ機会を作り充実させていく。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の対策として、予約制を取り、人数制限をしたので、目標値からはかけ離れた実績となった。令和3年度についても引き続きコロナ渦における事業実施となっているため、目標値からはかけ離れた実績となる見込み。</p>
見直し・改善内容	<p>「パパあそ」の日程に合わせて開催の「親磨きのススメ」とした家庭教育に関する講演会を、充実させていく。子育てひろば事業について、「家庭教育」の観点の内容を、引き続き充実させる。</p> <p>コロナ渦における「子育てひろば」の実施については、ソーシャルディスタンス等必要な新型コロナウイルス対策は行いつつ、人数制限をしながら事業実施する。</p>